

千葉県市川健康福祉センター発 いちうら感染症情報

「2023-12月②」 定期号

2023年12月28日配信

平素より地域の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。

- ・医療機関向け情報には(医)を、一般施設向け情報には(一)をつけています。
- ・2023年第50週：12月11日～12月17日、第51週：12月18日～12月24日。

ご覧いただく際に参考にしていただければ幸いです。

12月号第2回目の配信となります。原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。

1



全数報告感染症情報

※市川保健所管内の直近5週分の感染症発生動向状況は、メールの添付資料（「2023.47週～51週」.pdf）をご確認ください。

●管内の状況（報告のあった疾患のみ掲載しています）

2023年第50週、第51週

二類感染症	2週分	累計（年）
結核	5	81

五類感染症	2週分	累計（年）
侵袭性肺炎球菌感染症	2	8
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3

2

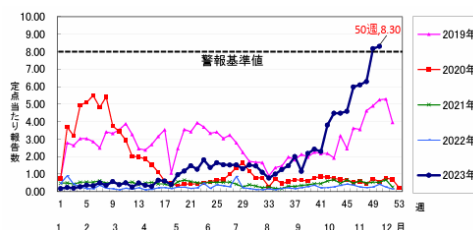


発生動向トピックス

●12月20日付けで、「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について」報道発表がありました。感染防止対策の実施に努めましょう。

2023年第50週に県内の小児科定点医療機関から報告されたA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数が8.30(人)になりました。国が定める警報基準値「8.00(人)」を超えました。管内の定点当たり報告数8.33(人)も、前週と比較して増加傾向です。

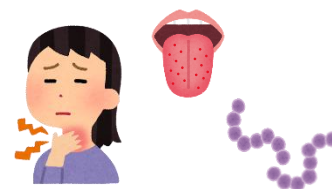
潜伏期は2～5日であり、発熱やのどの痛み、莓状の舌といった症状が発生する小児に多い病気です。感染予防策としては、唾やよだれの付着した食器やおもちゃを直接触らない、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染防止対策が有効です。なお、学校安全保健法では、「適正な抗菌薬治療開始後24時間を経て全身状態が良ければ登校可能」とされています。



参考・引用

厚労省・国立感染研：IDWR 感染症週報 2023年12月20日第47週

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2023/idwr2023-47.pdf>



千葉県：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（令和5年12月20日）

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/agunyourenkin.html>

●管内で角化型疥癬の集団発生がありました。

疥癬は、ヒゼンダニがヒト皮膚角質層に寄生することで引き起こされます。日本では、高齢者施設や病院などで流行が見られていますが、近年保育園でも流行が報告されるようになっていきました。直接的な接触感染の他に、衣類やリネン類等から間接的に感染することもあります。ヒゼンダニの虫体、糞、脱皮殻などに対するアレルギー反応による皮膚病変と掻痒を主症状とし、通常疥癬と感染力が強い角化型疥癬の2種類があります。また、このダニは、ヒトの体の皮膚上で一生を過ごし、卵→幼虫→若虫→成虫と脱皮を繰り返しながら成長します。

感染拡大を予防するためには、患者の早期発見・早期治療が重要です。入院(入所)時や日常のケア時、入浴時等に皮膚の観察を行い、疑われる場合はできるだけ早く皮膚科を受診しましょう。集団発生時は、すみやかに感染源を特定し、感染の機会があった入所者やスタッフの検査等を行うことが必要です。



参考・引用

NIID 国立感染症研：疥癬とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/380-itch-intro.html>

厚労省：高齢者介護施設における感染対策マニュアル <https://www.mhlw.go.jp/content/000500646.pdf>

●管内の医療機関から麻疹疑い事例の検査依頼がありました。

本事例は、発熱を伴う感冒症状から始まり、数日後に発疹がみられ医療機関を受診し、確定診断のために、医療機関から当保健所へ検査の依頼がありました。衛生研究所で検査した結果、麻疹・風疹共にPCR陰性でした。

年末年始は、国内外を問わず人の往来が増加する時期です。「麻疹」は、世界で流行している感染症で、コロナ禍の後、増加しています。

感染すると通常10～12日後に38℃前後の発熱、咳、鼻水、くしゃみ、結膜充血などが約2～4日間続きます。解熱後に、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。感染経路は空気感染で、感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%で発症すると言われています。**感染防止策として、ワクチン接種が有効です。定期的に、医療機関や教育機関、施設職員等の罹患歴や予防接種歴を確認していただき、接種歴の無い職員については、抗体価の確認もしくは麻疹風疹混合ワクチンの接種等をご検討ください。**

参考・引用

国立感染症研：麻疹とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html>

厚労省：麻疹について

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

NIID 国立感染症研究所：麻疹発生状況に関する注意喚起（令和5年5月23日）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/12060-measles-alert-iryoukikan.html>



●年末年始に海外渡航される方は、渡航先の感染症の流行状況や予防接種などを確認しましょう。

海外においては、国内ではみられない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、麻しん風しんを含め推奨されている予防接種をご確認ください。なお、2023年に県内医療機関から報告のあった感染症のうち、海外で感染したと考えられるものは右の表のとおりです。

表:2023年に県内医療機関から報告のあった海外で感染したと考えられる感染症

疾患名	感染したと思われる地域	主な症状 1)	主な感染源 1)
細菌性赤痢	東南アジア	下痢、発熱、腹痛	生水、氷、生肉、生野菜、カットフルーツ
腸チフス	東南アジア、南アジア	高熱、頭痛、だるさ、発疹	
パラチフス	南アジア		
A型肝炎	南アジア、アフリカ南部	発熱、だるさ、黄疸	
アメーバ赤痢	東アジア	下痢、粘血便	土埃中のカビ
コクシジオイデス症	北米	発熱、頭痛、咳、倦怠感	
チクングニア熱	東南アジア	発熱、関節炎、発疹	ネッタイシマカ ヒトスジシマカ
デング熱	東南アジア、南アジア	発熱、筋肉痛、発疹	
マラリア	アフリカ西部	発熱、寒気、頭痛、嘔吐	

感染症には、潜伏期間が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状が無くても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。医療機関を受診される場合は、**①渡航先 ②滞在期間 ③渡航先での飲食状況 ④渡航先での活動内容 ⑤動物との接触の有無 ⑥ワクチンの接種歴**等についてお伝えください。

詳細の内容につきましては、下記のホームページをご覧ください。

厚労省検疫所 FORTH : 海外へ渡航される皆さまへ https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html

3



インフルエンザ感染症

●定点報告数(下図)は2023年第50週、第51週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめたものです。

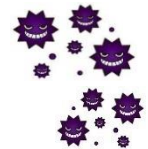
<市川保健所管内インフルエンザ発生状況>

(人)

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	631	1	0	0	16

※型非鑑別キット

(医療機関からの型報告なく不明な216例を除く)



●臨時休業週報数(下図)は、2023年第50週、第51週における学校等欠席者・感染症情報システムからの学級・学年閉鎖等をまとめたものです。

第50週

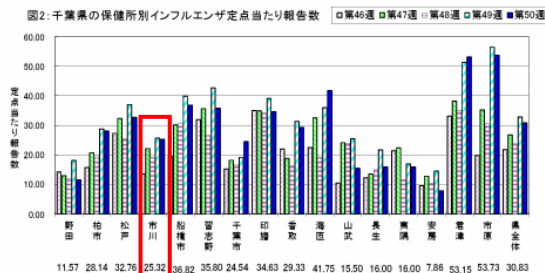
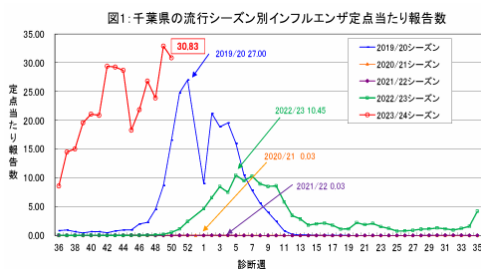
	休校数	学年閉鎖校数	学級閉鎖校数	計
保育所	0	0	0	0
幼稚園	0	0	1	1
小学校	1	0	37	38
中学校	0	0	11	11
高等学校	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	1	0	49	50

第51週

	休校数	学年閉鎖校数	学級閉鎖校数	計
保育所	0	0	0	0
幼稚園	0	1	0	1
小学校	0	1	14	15
中学校	0	1	6	7
高等学校	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	0	3	20	23

●インフルエンザ警報を発令しています。引き続き感染対策を行いましょ。

第50週の県全体の定点あたり報告数は、30.83(人)でした。報告数の多かった地域は、保健所管内別で、市原53.7(人)、君津53.2(人)、海匝41.8(人)となりました。管内の報告数は、25.32(人)となりました(図2)。



2023年第50週に県内で報告のあった5715例のうち、A型5428例(95%)、B型21例とA型が多いです。

インフルエンザを予防する一般的な方法としては、以下があげられます。

- ①手洗い、手指衛生
- ②マスクの着用を含む咳エチケット(特に、通院時や高齢者施設を訪問するとき)
- ③室内の換気
- ④適度な湿度の保持
- 必要に応じて
- ⑤人混みや繁華街へ外出を控える
- ⑥ワクチン接種

さらに、施設内では流行時に健康観察の強化、手洗いの徹底、咳エチケットにご留意ください。

千葉県:インフルエンザ発生状況 <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202350influenza.pdf>

4



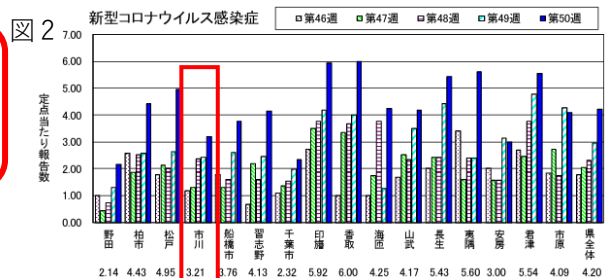
新型コロナウイルス感染症



●定点医療機関による感染者数の報告は増加傾向です。

第50週の県全体の定点あたり報告数は、4.20(人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、保健所管内別で香取6.00(人)、印旛5.92(人)、夷隅5.60(人)となりました。

市川管内の報告数も、前週から大幅に増加して3.21(人)となっています(図2)。



新型コロナウイルス感染症を予防する一般的な方法は、インフルエンザを予防する方法と同様になります。

【参考・引用】

千葉県:新型コロナ感染者の発生状況

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202350covid19.pdf>

首相官邸:感染症対策へのご協力をお願いします(手洗い・咳エチケット) <https://corona.go.jp/prevention/pdf/kansen.pdf>

国立感染症研究所:新型コロナウイルス感染症サーベイランス速報・週報:発生動向の状況把握

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/12015-covid19-surveillance-report.html>

厚労省:新型コロナウイルス感染症 一般向け Q&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

5



お知らせ

HIV 抗体検査実施予定日

検査実施日: 1月18日 13:30~

(予約開始日は、1月9日 9時~)

検査内容: HIV、梅毒、クラミジア、淋菌、B型肝炎、C型肝炎

問い合わせ・予約方法: 市川保健所疾病対策課 電話にて要予約

* 検査実施に関する詳細、他日程につきましては、ホームページをご覧ください。

市川保健所: HIV 抗体検査・肝炎ウイルス検査のご案内

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kf-ichikawa/kenkousoudan/hiv.html>

千葉県では、休日街頭 HIV 検査も実施しております。検査実施に関する詳細、他日程につきましては下記のホームページをご覧ください。

千葉県: 休日街頭 HIV 検査 <https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kansenshou/kyuuujitu.html>

最後に

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまでご連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることをご了解ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任においてご利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

【配信元】

千葉県市川健康福祉センター (市川保健所)

いちうら感染症情報

ichiurainf@pref.chiba.lg.jp

